

## 令和 2 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ  
氏名 季増民

研究期間 令和 2 年度

研究課題名 高度経済成長期における郊外地域構造変貌のメカニズム

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	個人研究	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、日本、中国、タイ、インドネシア、ミャンマー、フィリピン等を対象とし、1960 年代日本に始まった高度経済成長の波を追っかけながら東南アジア最西端のミャンマーまで郊外の地域（土地利用など）や社会構造（コミュニティなど）の変貌の時空間的解明を目的とする。具体的には人々の移動を通して表現される郊外における地域や社会構造変貌の実態を動的に解明する。その上で「空間的に隔たった他者のアジア社会」の深層メカニズム、移動に伴うクロスのプロセスと転換点（ポイント）、さらには、異文化同士のシンクロの到達点を特定する。日本については、郊外地域再生の一環として進められているコンパクトシティ、スーパーシティ、旧工業基地の再生などの構想について、その実態や課題の把握を行う。

## 2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

アジア地域における経済成長の波が東の日本から西にあるミャンマーへと波及していく過程が地面に刻む軌跡と、それぞれの国の事情を有機的に結び付けることにより、時空間的に経済成長の多様なパターンを析出する。

日本国内では、①「柏の葉スマートシティ」について、環境共生都市（カーシェア施設など）、健康長寿都市、新産業創造都市構想のなどの実施状況、②コンパクトシティについては、モデル都市富山駅周辺の改造などの近況、光（成功）と陰（課題）の実態、③スーパーシティについては、整備予定地域である御殿場、裾野における土地利用現状や時空間的变化、④スーパーシティ構想アイデアの「完全新規型」の和歌山市、現状や実施可能性と課題についてそれぞれ現地調査を行った。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

先に農村があり、その後、都市が生まれる。農村と都市の間には郊外がある。この三つの空間は、時代の流れに沿い、互いに時代の要請に応える機能をシェアし均衡を保ちつつ、地域や社会を構成する。社会・経済活動の低迷期には、郊外が都市と農村の機能を厳格に分ける役割を担う。高度経済成長期のような活発期に突入すると、郊外は、地域成長の中核に踊り出る。成熟期に転じると、郊外は持続可能な地域活性化を再構築する主戦場になる。

地域空間を農村・都市・郊外の3つに割って、相補的に調整しあって均衡を保つ。これを三方鼎立と称する。農村・都市だけでは担えない役割を常に影に隠れて調整する郊外という「第3地帯」がカナメである。

農村と都市が衝突と融合を繰り返す結果は、ほかでもなく郊外という空間に投影される。一方、郊外地域は時の人類文明、社会、経済、文化、地域の変化を如実に映し出す鏡である。農村・都市・郊外3者は、時代の要請に合わせて、ドライバーとパッセンジャーの役割を交代し、相補的に調和する。社会・経済構造が絶えず調整するなか、農村・都市・郊外がそれぞれ果たす空間的役割の伝承と変異は、地域構造変化の本質である。

グローバル化に巻き込まれる時代になり、国情による各国の相違が次第に縮減し、むしろ共通点が増えている。相違点については、あまり否定的にならず、まずはありのまま一旦受け入れる。後でその存在の背景について、その国の国情と結び付けて柔軟な姿勢で考え、包容する。前向きにそれぞれの知恵を相互に学びあう姿勢が大事である。

21世紀の最大課題はSDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の実現である。SDGsを実施するための足掛かり、受け皿、実験空間としては、都市でも農村でもなく、その両者にまたがる柔軟性が高く、制度の縛りが緩く、人の移動と交流が盛んな郊外地域が望ましい。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①郊外地域	②アジア	③新興国	④ミャンマー
⑤中国	⑥比較研究	⑦地理学	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

① 季増民(2021): 高度経済成長期におけるヤンゴン郊外地域構造の変化  
椋山女学園大学研究論集 52号、社会科学篇、pp. 59-70.

② 季増民(2021): 長江デルタにおける都市近郊農村の都市化過程の研究、  
「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第20巻、2019、pp. 69-90.